

柏楨

この道に生えている 7 本のイブキの木々（学名 *Juniperus chinensis*）は建長寺の開山である蘭溪道隆（1213–1278）によって植えられたと考えられています。蘭溪は 1246 年に禅仏教を教えるために日本へ渡来した中国の禅僧です。

言い伝えによれば、蘭溪は中国を離れた時にイブキの種を持って行ったといわれています。もう中国には戻らないだろうということを知っていた蘭溪は、故郷のことを思い返すために、その種から育った苗木を建長寺に植えたのです。

それ以来、イブキの木々は見事に成長していき、14 世紀と 15 世紀に建長寺の大部分を破壊してしまった数々の火事も生き残りました。7 本のイブキの中でも最も大きいものは高さが 13 メートルあり、円周は 6.5 メートルあります。これらのイブキの木々は鎌倉市によって指定保存樹木とされています。